

事務 事業名	コード1	12800	長寿祝金支給事業	課	社会福祉課		
	コード2				社会班		
施策 体系	基本方針	3	健やかでやすらぎのあるまちづくり	電話番号	62-5317	内線	144
	施策	4	高齢者福祉の充実		会計		
	施策の展開	4	生きがいづくりの推進	科目	一般会計		
	基本事業				3	2	1
				根拠法令	旭市長寿祝金支給条例		

1 現状把握(Do)

(1)事業概要

① 事業期間		② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない					
☑ 単年度繰返	☑ 平成 17 年度～	・敬老の日から始まる老人福祉週間に、規定の年齢の方に長寿をお祝いして祝金を贈る。 (80歳:5千円、88歳:1万円、99歳:2万円、100歳以上:3万円)。 ・100歳の方は、市長、海匠健康福祉センター長が訪問し、国の銀杯授与と合わせて記念写真撮影を行う。					
	☐ 開始年度不詳						
☐ 期間限定複数年度							
平成 年度～							
平成 年度まで							
※全体像を記述→							
		【業務の流れ】 9月1日現在の住民登録の抽出→各民生委員へ祝金の配付を依頼(説明会を開催)→各民生委員による配付					

(2)トータルコスト

① 事業費の内訳(25年度の実績)		単位:千円
1.報償金	8,087	祝金及び額(100歳)
2.消耗品費		2.写真プリント用紙
3.食糧費	8	会議用お茶代
4.印刷製本費	17	祝儀袋印刷代
5.その他	0	
② 延べ業務時間の内訳(25年度の実績)		単位:時間
住民登録の抽出及び配付名簿作成等		30時間

		単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)	
事業費	費目内訳	1. 報償金	千円	7,982	8,140	8,087	9,321
		2. 消耗品費	千円	16	7	2	5
		3. 食糧費	千円	0	8	8	10
		4. 印刷製本費	千円	20	19	17	24
		5. その他	千円	26			
	事業費計 (A)		千円	8,044	8,174	8,114	9,360
	うち一般財源		千円	8,044	8,174	8,114	9,360
	人件費	正規職員従事人数	人	0.01	0.01	0.01	0.01
		延べ業務時間	時間	30	30	30	30
		人件費計 (B)	千円	114	114	114	114
トータルコスト(A)+(B)		千円	8,158	8,288	8,228	9,474	

(3)事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	25年度実績(25年度に行った主な活動) 住民登録の抽出及び配付名簿作成等	ア 報奨金支給者数	人	1,046	1,077	1,031	1,099
目的	26年度計画(26年度に計画している主な活動) 住民登録の抽出及び配付名簿作成等	イ					
		ウ					
上位目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	⑥ 対象指標名	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	ア 80歳の方、88歳の方、99歳の方及び100歳以上の方 イ 市民	ア 80歳、88歳、99歳、100歳以上人口	人	1,046	1,077	1,031	1,099
	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	イ 人口(4月1日時点)	人	69,749	69,223	68,725	68,241
	ア 長生きできて良かった、更に健康で長生きしよう、と感じる イ 高齢者を敬い、感謝の念を抱く	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
		ア 祝金を辞退した人数 (祝金をもらって「長生きできて良かった、更に健康で長生きしよう」と感じた対象者の割合)	人	0	1	0	0
		イ 高齢者を敬い、感謝の念を抱いている市民の割合	%	データなし	データなし	データなし	データなし
	④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか	⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	今後も生きがいを見出して、長寿で健康に過ごしていただく。	ア 高齢者に占める要介護認定者の割合 (65歳以上要介護者認定者数/65歳以上高齢者数)	%	13.6%	14.1%	14.6%	14.8%
		イ 平均寿命	歳	H22 男79.0 女86.1	データなし	データなし	データなし

(4)事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か?どんな経緯で始まったか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか?開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか?	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
合併前の旧市町で祝金を支給していたことから、合併時に80歳以上の方に支給を行うようになった。合併後5年を経過したことをきっかけに近隣市町村の状況も踏まえて現在のかたちでの支給となった。	平均寿命の上昇 平成22年度に支給対象及び支給額について見直し。80～89歳(5千円)を80歳(5千円)と88歳(1万円)に、90～99歳(1万円)を99歳(2万円)に、101歳以上(1万円)を(3万円)に、見直し。100歳の方は(3万円)変更なし。	100歳の方を訪問する際は非常に喜んでいただいている。

事務事業名	長寿祝金支給事業	課名	社会福祉課	班名	社会班
-------	----------	----	-------	----	-----

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 施策体系との整合性 この事務事業の目的は市の施策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 祝金を支給し、長寿を祝福することで高齢者の方に長生きしてよかったと喜んでもらうことは、今後も生きがいを見出して、長寿で健康に過ごしていただくという高齢者の生きがいづくりにつながる。
	② 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 適切である ⇒【理由】 今後団塊の世代が対象年齢になることで支給対象者数の増加が見込まれるため、支給対象を見直す必要がある。
	③ 行政関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 高齢者を敬い、感謝の念を市全体で表すために市が関与する必要がある。
有効性 評価	④ 成果の現状水準 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】 対象となる長寿の方ほとんどが祝金を受け取り、喜んでもらえているため、高齢者の生きがいづくりにつながっているが、近隣の同種事業の実施市町では祝金を廃止したり、額を下げたりしている状況から、本市でも見直しの余地がある。
	⑤ 成果の向上余地 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するとどうか？成果の向上余地はどの程度あるか？	☐ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☒ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】 支給金額よりも市としてお祝いをするのが生きがいにつながっており、支給金額や支給対象者数を増やしても成果は向上しない。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にはどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある ↳ (1) 事務事業名：(100歳の銀杯(国)、敬老大会) (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☐ 連携ができる ⇒【理由】 ☒ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 合併当初から連携して事業を実施している。 100歳の方は、市長、海匠健康福祉センター長が訪問し、国の銀杯授与と合わせて記念写真撮影を行っている。 敬老大会開催会場で長寿番付を発表している。 ☐ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(表面トータルコストの事業費部分) 事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 より対象者を限定する(支給対象年齢を見直す等)ことで事業費を削減する余地はある。
	⑧ 人件費の削減余地(表面トータルコストの人件費部分) やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 対象者の抽出は電算で行い、祝金の配付も民生委員の方をお願いをしており、正規職員の業務時間は最低限度であり、これ以上の削減は難しい。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 対象年齢に達すれば、全ての方が支給対象となるため受益機会に偏りはなく、公平・公正である。

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1)1次評価者としての評価結果	(2)全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	今後団塊の世代が対象年齢になることで支給対象者数が増えることが見込まれるため、支給対象を見直し、支給額を抑制する。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1)今後の事業の方向性(複数選択可) ※2～3年後を目処にした方向性			(3)改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																								
☒ 目的再設定 ☐ 行政関与の見直し ☒ 事業のやり方改善による成果向上 ☐ 事業統廃合・連携(関連事業： ☒ 事業のやり方改善による事業費削減 ☐ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減 ☐ 受益機会の適正化 ☐ 費用負担の適正化 ☐ 廃止・休止			<table border="1"><thead><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>						コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	○			低下			
									コスト																		
							削減	維持	増加																		
成果	向上																										
	維持	○																									
	低下																										
(2)改革改善案について ※いつまでに、なにを、どうするのか？																											
いつまでに 平成27年度	なにを、どうするのか？ 支給対象年齢の見直し																										
(4)改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 住民への周知と理解																											